

経営比較分析表（平成30年度決算）

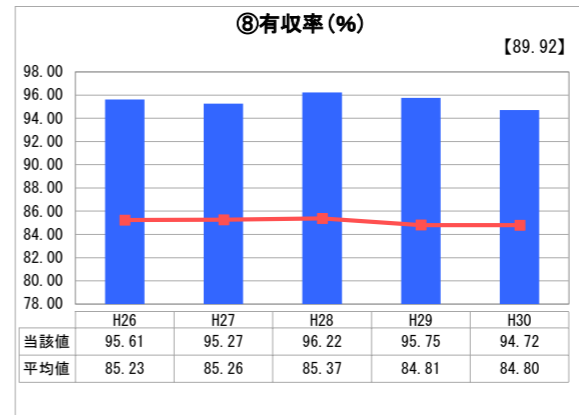
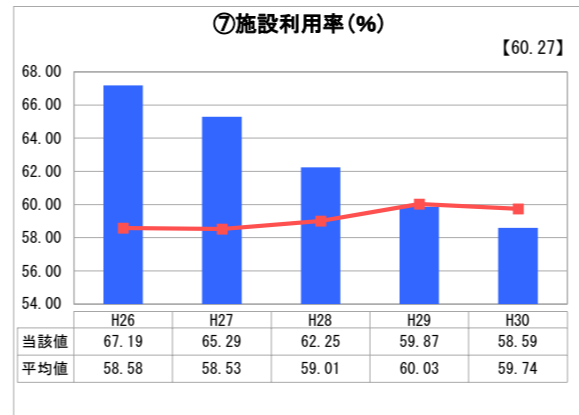
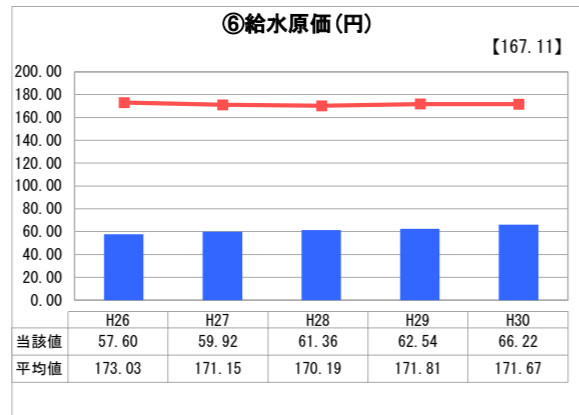
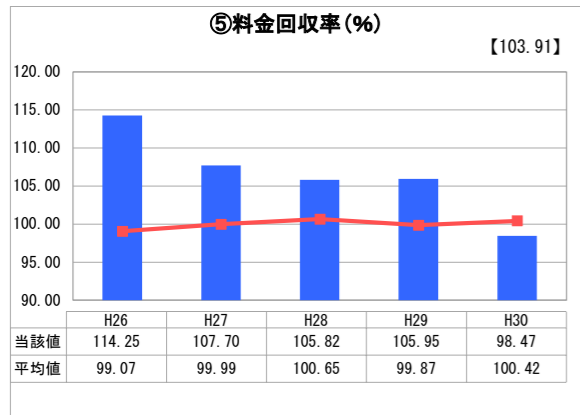
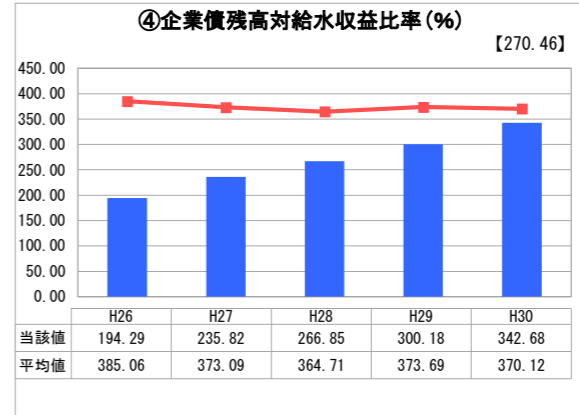
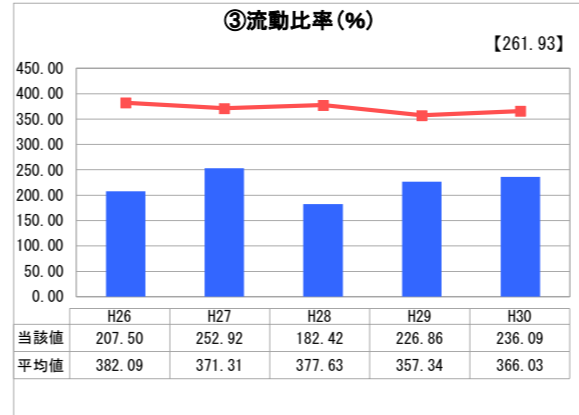
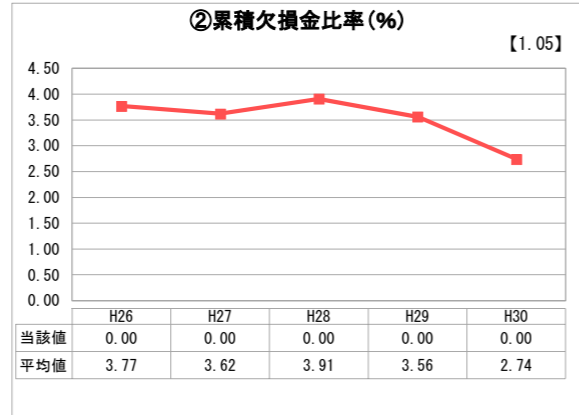
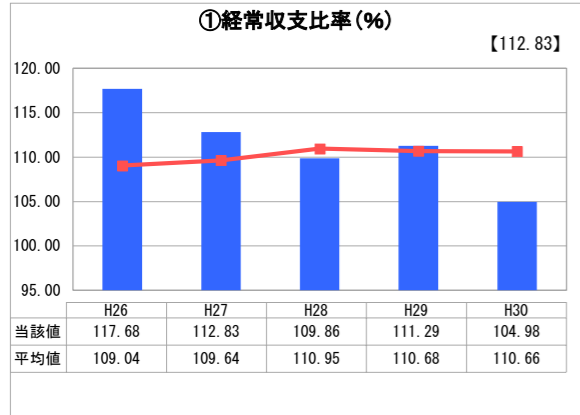
兵庫県 赤穂市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	72.04	100.00	853	

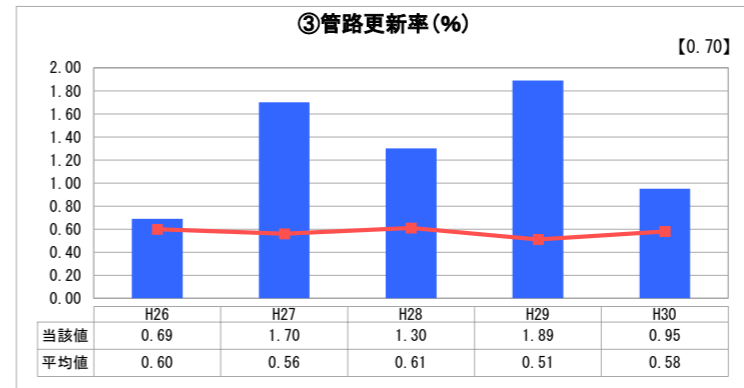
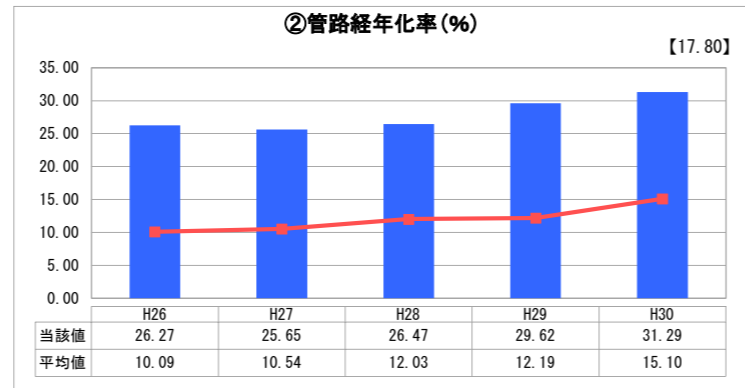
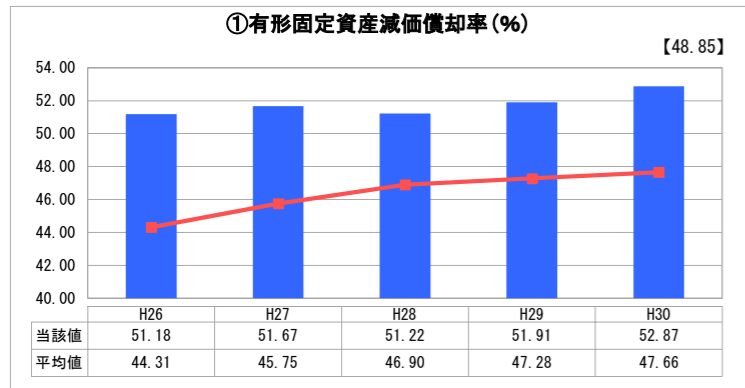
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
47,839	126.85	377.13
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
47,612	31.15	1,528.48

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
[]	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率及び料金回収率において平均値を下回っており、年々悪化している。これは、人口減少等により料金収入が減少する一方、費用において維持管理費や企業債利息が年々増加していることが要因となっている。企業債残高対給水収益比率を見ても平均値は下回っているものの更新費用の増加により年々企業債残高の割合が増加している。効率性については、施設利用率が人口減少等による配水量の減少により年々減少し、平成30年度においては、平均値を下回り配水能力の余剰が増加している状況である。有収率については、減少傾向にはあるものの平均値より高くなっており、配水された水量が高い割合で収益に結びついている状況である。

2. 老朽化の状況について

平均値と比較して、有形固定資産減価償却率、管路経年化率が高いことから、老朽化した施設や管路が多いことが分かる。平成25年度に水道ビジョンを策定し、老朽化した施設や管路の耐震化を順次行っているが、それ以上に法定耐用年数を経過した管路が増加したため、前年度より管路経年化率が高くなった。管路更新率は計画的に老朽管の更新を行っているため、平均値を上回っているが、管路経年化率の上昇も踏まえ、更新等の財源確保に努め、更新率を上昇させる必要がある。

全体総括

安全で、安心な水道水の供給のために、老朽化した施設や管路の更新、災害に備えた耐震化、高度浄水処理設備の設置、監視体制の強化等への取り組みが急務であり、その財源確保が必要である。経営状況は、上記のとおり年々悪化しており、今後もこの状況は続く予想されるため、料金水準の見直しによる収入の安定化や施設の統廃合等によるダウンサイジングなどによりコスト削減を図り、経営改善により健全な経営の維持に努めていく。